広報こすど

発行所
小須戸町公民館
新潟県本寄郡小須戸町
印刷発行
編集人 矢部藤三郎

期待したい町づくり

―新産業都市建設計画促進案―

新産業都市計画という言葉が、さかんにつかわれるが一体どういうことなのであろうか。またその計画自体がどこまで進展しているのだろうか。この計画をバッスイによりここにのせた。

この産業都市計画は、大都市における人口及び、産業の過度の集中を防止し並びに地域の格差の是正を図ることと、雇用関係の安定を図るため、産業の立地条件及び都市施設を整備するのである。またその地方の開発発展の中核となる新産業都市の建設を促進し、もつて国土の均衡ある開発発展及び国民経済の発達に力を入れるものである。新潟地区における新産業都市建設の必要性は、

一、京浜大工業地帯に近く対岸（ナホトカ）にも最短距離にある。

二、越後平野を控え、工業地域建設、大都市開発が可能である。

三、広大な砂丘地域であって、障害物件が比較的少なく、地価も低廉であって港湾、工場、住宅などを含む都市建設が可能である。

四、工業用水は信濃川、阿賀野川、加治川等があり豊富な流水を容易に取水できる。

五、地下資源も無尽蔵にある。

ことなどがあげられるが、また一面社会的条件から見た場合は、

一、労働力の事情は農村地帯をもち、余剰労働力を中心として豊富である。

二、新潟港を中心に平野一円の交通条件は整備されている。

三、国道の整備、上越線電化の完成と複線化の進行により一段と輸送力の強化ができる。

これらのことから日本海沿岸のほぼ中心的位置をしめ、自然的条件、社会的条件から見ても新産業都市建設の可能性は大きい。そこでこの目的である地域格差の是正は、局地的な問題としてではなく、国民の経済的考慮の下で処理されなければならなくなっている。この意味で全国総合開発計画では、拠点開発方法をとり立地条件に適合した開発拠点を育成し、拠点のもつ開発効果を通して産業の適正な配置と、都市、農村の適正な配置を確保し有効適切な利用をする。そこで本県でも、昭和四十五年を目標にして、県民の生活、所得水準の向上を図るためあらゆる条件に、県土の総合開発利用、産業構造の近代化及び基盤の整備による高度成長産業の育成を主体とする県総合開発計画の一つである。

以上のようなことから、図のように計画地域がでてきて、現在では、

人口　七七三千人

であるが昭和四十五年の推計予定では、

人口　一一〇〇千人

が見こまれている。また地域も五市、八町、十一村の二十四市町村より、大新潟産業都市が計画されているものである。以上がこの計画の大要であるが、この計画自体がまだ本当の計画であるためにに実施するというまでには相当長い時間が必要であるため、利点や不利点等をみることができないのである。

新産業都市計画地域図

また本町にはどのようなかたちで影響するのかは、国の新産業都市指定ともあいまって、このもの自体が計画のため、話してみようもないのが現状であり、今後において計画がねり上げられ、本物化した時にようやく言うことができるのである。

定刻守って　よい　町づくり
新生活入選標語

連合婦人会の美挙

小須戸町連合婦人会では十一月三日、四日に開催された文化祭に食堂を開きその純益金のうちから次のところへそれぞれ寄附され関係者にたいへんよろこばれた。

中学校　壱万円
町小学校　壱万弐千円
矢代田小学校　五千円
柔剣道クラブ　参千円
公民館　参千円

郵便局からのお願い

○郵便物の事故は必ず申告しましょう

郵便省では、郵便物がまちがいなく早く届くよう努めています。

もし皆様の郵便物が着かなかったり、中身が足りなかったり、その他事故があったときは、書留に限らず普通郵便物であってもすぐに近くの郵便局へお申し出下さい。

差出人ばかりでなく、受取人からも申告ができますし、どこの郵便局でもお申し出を受けて、特別の調査票により調査して、その結果をお知らせすることになっております。

なお、書留郵便物については、取扱経路によって正確に調査し、万一事故があるときは、損害賠償することになっております。

また普通郵便物については、相当期間かかる場合もありますが、普通扱の事故だから調べても判らないだろうとお考えにならず、その事故の原因がどこにあるかを調査しますのでつとめてお申し出下さい。

× × × ×

現金封入はやめましょう

普通郵便物（普通速達も含む）へ現金を封入して差し出しているものが、かなりあるようですが、これは郵便法で禁止されております。

現金は必ず現金書留で出しましょう。

また小為替送金の方法もあるので、郵便局へ御相談下さい。

壇論　互にいましめ明るい町を

矢代田壺屋徳一

近頃の若い人たちがのびのびとして大自然の中に解放され青春をおう歌する有様は、ほほえましい限りであるが、しかしそうした動きの中に独創的な建設的な感じがうすいようである。

率直にいわせてもらうなら無責任な行動が多いように思う。

先日も上野からの帰り若い七、八十人の登山客と私は一緒に汽車に乗ったが、これらの登山客の多くは他の一般の旅客の迷惑もかえりみず、真夜中の車内で騒々しく、キャラメル、チョコレート、ビールの空缶、空ビン、古新聞、雑誌等を車内に散乱して上越線土合駅へ下車した。

下車した後の車内は一面足の踏場もないような屑の山であった。食べ殻や紙屑類は一まとめにして置く位のことは旅のエチケットであり常識であるはずなのに……。

このように近頃の若い人達は伸び伸びとして、ひがんだ気分が少なく一般に応揚になった点は喜ばしいことであるが、それと同時にやりっぱなし部分の人であろうが、その中には友人、知己、親類に迷惑をかけておる人もあろう。

こんな不始末をして世ば雑巾を置き放しにする、草刈りにでれば鎌を置き放しにする、着物をぬげばぬぎっ放し、箒は置きっ放し、床はとりっ放し、下駄はぬぎっ放し、借りたものは借りっ放し、物を頼まれれば頼まれっ放し、更にひどいのになると借りた物を質に入れるものさえあるという。

こうした者はほんの一部であろうが、その中が通れるものなら難儀をして暮している者は愚の骨頂に見えるかも知れないが、世の中はそうことになるから、なに事においても他人に迷惑のかからぬよう自覚と責任をもつて行動しなければならない。

しかし個人個人は神でない以上、必ずといついい位欠点というものを持っているから、その欠点を蔭口にしないで親切に赤裸々な所を教えてくれる人々こそお互に神とも思わなければなるまい。私達が生活して行く以上その欠点を隠さず注意し合って互に相手の善意を信じ認め合うことができるようになれば、ひいてはそれが社会を明るくすることになるのではあるまいか。それでお互に少なくとも他を害せず又他に迷惑を掛けないという線を守らなければならない。これは勿論行動の上でも絶対に守らなければならない。そして互敬互敬の心でみんなが進んだなら必ず住みよい町、明るい社会が築かれるものと信じている。

)(

小須戸風土記

明治大正　**越後侠客物語**　その四

柏大治

わけはわからないが、後に大親分といわれた森田喜三次、人の困るのを見て素通りはどうしてもできない、侠気がむらむらと起ったからたまらない。天びん棒をなげすてると多くの人を押し分け前へでた。

「父さんお金がなくて難儀をしているらしいがいくらいるんだい」

「旅へきて面目もないしだいですが二円のお金がなくて困っています」

「それくらいの金なら俺が上げよう」

と喜三次は永年溜めた金の中から、五円を老人にあたいた。

「これはどなたか存じませんが、こんな大金を下さって……」

「なあに困る時はおたがいさんですよ、これは俺が仂いたお金だから心配なさんな」

と老人の難儀を救った。なさけは人のためならずといわれる。後の酒屋鶴亀橋の一件で、あわや森田喜三次の一命危しとみた時、この老人に救われた話しは後段にゆずって

喜三次ここを立ち去ろうとすると、奥の一間から五、六人の若い者が飛びだした。

「若衆、お前なかなか感心だなあー、遊んで行きな」

と無理に奥の一間につれて行かれた。一同目に合図する。

この若い者たちは甲府の親分赤岩一家の出店、赤岩一家の身内のものだが堅気の喜三次はそんなことは知らない。

「おい若衆、加茂の者から毎日金もうけばかりしないでたまには、加茂にもお金を落して行けよ」

と中の一人がたもとからサイコロをころがして見せた。

「お前知っているだろう」

「俺はそんなものは知らないよ、今日は遅いから帰してくれ」

と喜三次はしきりにたのんだが、一向に聞くようすがない。

「これは天地六、東西南北五二、といって面白いものだー知らなかったら俺が教えてやるわい」

と一同に意地きたなくいわれて、ついやる気になった丁、半。喜三次張ってはとられ、始めから負けどおし自分の永年仂いて溜めたお金は勿論、主人の売り上げ金まで見事にとられる始末。始めから生れて始めておこったのだからものすごい。

「貴様等はよくも正直なものの金を巻き上げたなー俺の金は文句はないが、主人の金までイカサマに取られたんでは、喜三次小須戸へ死んでも帰れない。野郎共主人の金を返すのが嫌なら俺を殺せ」

とわれがねのような大声でどなりつけたから、赤岩一家の若い者もこのけんまくにおどろいた。とんでもない野郎を引き入れたものだと思って後悔している処へ、「おゝー若衆、良い度胸だなー」と赤ら顔のでっぷりとふとった男が入ってきた。

「おおー清水の客人がお いでなしたーねえー客人この野郎は生意気の野郎だから、片腕もいでやろうと思っている処ですよ」

と赤岩の子分達は強そうなこの男の姿を見ると急に威張りだした。

「やい若造さいぜんからおとなしく手前の文句を聞いていれば、つけあがりやがって不具にならないうちは帰らないのか」

といきまけば、気の早い子分の中の二、三人は紺の胴巻深くからきらりと光る九寸五分をもち、喜三次をとりまいた。これでおどろくと思ったが、森田喜三次どっかりあぐらをかくと、見事な両肌をずばりぬいで、

「おおー切られたくて待っていた、九寸五分の刃物に驚く森田喜三次じゃねいやー

金がかえせなければ注文通り殺してくれー遠慮はいらない」

とつめよった。

なぎさ

桃栗三年

「桃栗三年柿八年」ということばを、もう一度思い直してみたい。

植物の栽培にあたって、種類による開花期、結実期の差が大きいことを意味したものと思うが、これを人も同じように、三年で一人前になるものもあるし、仕事によっては八年もかからないと一人前になれないといった意味で、使っているようである。生み出していくことや作り出していくことには、こうした苦労の日日を過した後に花開く場合が多い。

中でもわが子を育てる親の愛情と忍耐を考える時に特別その感を深くする。三年だけで一人前になってくれる子供もいようが、八年かかってもなお一人前になれない子供もいるかも知れない。

しかし親なればこそ、八年かかるわが子をもやさしくいたわり、かばってその成長をじっと見まっていてくれる。

もっとも人間の成長には限りなく、「だるまの九年、おれは一生」といったことばまである。人間の完成まで考えれば一生、修練の連続だというのだろう。

最近の子供についてよく世間の親の方々から反抗的で困るという声を聞くが、ひどいのは、叱られて、「そんなに、ならなぜ生んだと逆ネジをくらなければならないとなげさえあったとかた子供を育てるにも一桃栗三年柿八年」の長い眼りない愛情が必要なのだろう。

文化！この偉大な人類の足跡もまた例外なくこうした各時代の子供たちの手によってその親のはぐくみの中から生み出されてきたものである。親を尊敬し、祖先を敬う心も真の愛情の中から生まれてくるのではないだろうか。

年賀状は
12月22日までに
年末小包は15日までに
荷札(2枚)もつけてお出し下さい
一日も早くお出し下さい

その後どうなっている

小須戸町の重要問題

幾多の問題を背負つて、今年もまた暮れようとしているが、この中からいくつかをひろつて、その後のようすや、これからの見通しをきいてみました。

矢代田駅の集約問題

このことについて、駅の人にうかがってみました。

平均時速十九キロ、新潟東京間二日半では「運賃は安いが時間がかゝりすぎる」の声は当然で、急ぐ荷物は次第にトラック輸送にかわりつゝある現在、国鉄の計画は一応首肯できるが、取扱う貨物の量からも利用範囲の広さからも是非存続されることを念願するものである。

現在も国鉄の矢代田駅集約の計画は変更されていないがこの実現は未だ半年や一年先きの事ではなく、その前に取扱量の少ない駅の集約があり、新津駅の拡張が必要な筈である、しかしその間に袖手傍観することなく、県の対策委員会と連絡の上関係町村民一丸となつてその筋路に運動する事が必要であると思う。近くは亀田駅の例もあり新潟、新津にはさまれた亀田と新津、加茂の中間にある矢代田、似た条件である亀田が存置に成功したそうである。また一方新潟市を中心とした新産業都市計画が進むにつれて新しい構想の中で考え直される可能性もあり、あくまで望みを捨てず強力な運動を展開する段階である。

小須戸橋の建設

橋の問題は前号にも一部記してありますが、当初三カ年計画で工事に入りましたのが昭和三十四年度であります。現在第四年度に入っているのですが、みなさん見ての通りであります。

現在までの工事は四本のピアー（橋ケタ）と小須戸町側の取付道路の整備と上部の鋼材二連分の工場発注であり、今後三十八年度中に完成するためには、上部鋼材の残り分の一連と白根市側の取付道路の整備と鋼材の架設によるものが必要です。

これを金額で見た場合は当初の予算は、一億二千万円ですが、今後完成までには、六千五百万円程度が必要とされているのです。

そこで現在一日も早く地域のもっとも大切とされている小須戸橋を完成させるために、各関係方面に陳情、請願の運動を進めております。

塵芥焼却場

この問題についてはさる十月七日の臨時議会で決定をみておるとおり、矢代田地内に敷地二百十坪の売収ができ、建設が進められる。

場所は矢代田への途中東大通り川の新保寄りで農道九号線矢代田駅裏に出る町道沿いである。

建設が予定されている焼却炉は、一日の焼却能力は一千五百貫の能力をもつもので、全町のゴミを一手に焼却するもの。

また運搬用の自動車はトヨタの小型新車をすでに購入してあり、町の道路に合つた車で、焼却場の完成とともにきれいな町ができるでしょう。

みんなでやりたい青年学級

私は今年の四月より青年学級で、毎週月曜日の夜に商業コースで学習しています。私たちが希望する学習内容で学べることを、本当にうれしく思っています。

そこで今年も後期に入りますが、初歩より学習を進めたいとみんなで話し合っています。

一人でも多くの人達が参加して、おたがいに学習にまた体育に、若い力を発散させて行きたいと思っています。私だけでなくみんな学びたいと思っています。

＜学級生　M生＞

学級のしおり

四月より開いております青年の学習の場である「青年学級」も今年度半期をすぎ、一層学習にも実のあるものにと、進展してまいりましたが、ここで各コース共一層多くの青年達と学習するために、広く青年達より集まってもらい、みんなの学習することを目的にして、後期を前進したいと思います。

青少年男女の積極的参加を希望します。

学級の開かれる日時については次の通りです。

期日　毎月　月曜日の夜

七時二十分より

場所　小須戸町公民館

また各コースの学習計画はみんなで定めますが、主体となっているものは次の通り

一、簿記（商業）コース

講師　佐藤先生

簿記を中心にして、学習を進めております。

内容についても、今月より初歩より学習を進めて行っております。

一、農業科コース

講師　金子先生
吉田先生

農業経営及び経済を中心に学習を進めております。また実際の面では県の試験所等の見学により目と、耳の学習を進めております。

一、家庭科コース

主に料理、手芸を中心に学習及び実習を行っております。女子のコースとして必要なものの学習だと思います。

以上現在三つのコースにより学習を進めております。

希望名は学習日か公民館にご連絡下さい。

電話　二七〇番です

病院の一日入院のアンケートの結果から

先般来実施されている県立病院の一日入院は好評裡に継続中であるが、このたび参加者からいただいたアンケートの中間報告がまとまったのであらましをお知らせします。

今回は第一回から第十回までのもので、参加人員一〇二名、回答率は看護部門八二%、給食部門八七%であった。

看護部門では十二項目の質問と参考意見を求めたがその集計結果から注目点を拾ってみると、一、すべて実習についてはやってもらってよかったという答が圧倒的で、脈の計り方の四三%を除いては、あとは全部七〇―九九%であった。二、家庭看護の基礎知識の習得程度は正しく習得されたと思う方が体温計の目盛の見方九三%、脈の計り方四一%、赤ちゃんのお湯の使わせ方七〇%、お乳の作り方六三%となった。三、話し方は「わかりやすかった」が八三%を占めた。四、町村部別統計では町部では約70%が看護法の実習を希望したのに村部では全部希望した。五、年令別に分けてみると体温計の計り方を始めて覚えたのは41才以上にだけあり、従って体温計の実習を必要としないものは40才以下に多く、脈の計り方を知らないものは30才以下なく51才以上に多い。参考意見はためになったというものがもっとも多く医学知識を得たいものがこれに次いだ。

給食部門は八項目の質問と感想を求めたが、その結果、第一の病院の食事と自分の家との塩加減の比較は九対一の割合で自分の家の方が塩からいと答えており職業別では自営業が塩分の強いものをとっている。

第二の米飯の摂取量は病院が多いと答えた方がやゝ多く、第三の粉食の普及度は一日一日食べているのといないのと同じくらいで、食べているのは大部分自営業であった。

第四のビタミン強化米の食用は、病院とくらべてはほとんどの人が理解できたと答え、第八の家族別の米の使用量と副食費の割合は一人一日の米使用量は〇、五～四合となり、副食費はだいたい一人一日三〇―一〇〇円でいどで、かなりひらきがあると思われる。感想としては一目で量や栄養価が、わかるように色々な食品が展示されてあったのが非常によかった。

試食で知った量と塩かげん、実物大で知った食品の重さ。理論だけでわからなかったことが実技指導で明確になった等々であった。

終りにこの一日入院の催しに絶大の御協力と御援助を賜わっている婦人会、町役場、公民館の方々に謝意を表します。なおくわしい統計は一応講習が終ってから出す事にしております。

「釣の研究」私の釣観

療養のカテとして始めた私の釣道楽は最后まで抽象的な考え方で終るだろうと思います。

最近レジャーとかいう訳のわからない言葉でいいふらされて居る点は私にとって大変都合のよい言葉として受けとられます。お金は掛らず、健康的で、その上おそう菜の一役を担い、栄養を補給し、家内中楽しめる。こういうと何処から見ても非のうちどころがない事になりそうですが、自分の体験から申していることで或は全部が全部当らないにしてもこれだけは認めていただけるのではないでしょうか。

自然に親しみ、その恩恵に浴し、身心共に鍛練明日への活力を見出す健康的な釣道楽を推奨してやみません。

最近の釣場情報

これからの釣場は主としてアカ虫による池沼での探りが興味深いものと思われます。

十二道の池、後土のめくら堀、桝潟の池（いづれも陸釣）亀田北山の池は舟で壺をあさる等冬季大会（アンカ携行）を計画して見たいようです。

又ごく最近漆山の大通川でツブの捕った収穫があったそうで大部くり込んだようすです、まだ〳〵堀も楽しめるようです。

第十七回文化祭盛会に終る

中学校新校舎の完成近いのみの音と共に、開かれた第十七回文化祭は雨にみまわれたが、学芸会各種体育大会でにぎわった。今年は連日の雨で出足もにぶりがちであったとはいえ第二日目の県下柔剣道大会や、婦人会の食堂に人気が集中、手のやすむひまもないといううれしいヒメイをあげる一コマもあった。

また、第二会場公民館は菊の花でかざられ、二階では昔をしのぶ名画がならべられていた。

第三会場矢代田小は十一月二十三日実施された。ここも部落別に作りあげた室は矢代田地内の生産品展等により、日ごろ勤労のよろこびをわすれがちでも、この日ばかりは楽しい一日のようであった。

各作品展共入選者は次の通り、

高校作品展

町長賞　書　吉村　愛子　菊化展
教委賞　手芸新井田久子　町長賞
公民館賞　写真　竹内　哲雄　一等賞
栗賀　政一　〃
高橋忠次郎　二等賞
長井　正　〃
大貫　泰弘　〃
原　レイ子　〃

〃　小須戸青年団　美術クラブ
臼井　庄次
栗賀　政一
真保　佐一
村山　又市
田巻　庄一
矢部藤三郎
馬場　真衛

県下柔剣道大会

柔道の部一般団体
一位　新潟県警察学校
二位　加茂農林高校
三位　新津柔道協会
少年団体
一位　白根中学校
二位　若宮中学校
三位　京カ瀬中学校
剣道の部一般団体
一位　小須戸柔剣道クラブ
二位　加茂農林高校
三位　五泉実業高校
少年の部
一位　小合中学校A
二位　五泉中学校
三位　小合中学校D

町一周駅伝大会

一位　矢代田チーム
二位　新津高校
三位　天ケ沢チーム
招待チーム

町民排球大会

一位　加茂陸協
二位　亀田陸協
三位　新津陸協
総合一位　加茂陸協
タイム　一時間六分二十二秒

最優秀選手賞
五十嵐考治（矢代田）

町民卓球大会

団体戦
一位　小須戸中卓球部
二位　矢代田チーム
三位　加藤製作所

男子個人
一位　高橋忠次郎
二位　清水　忠夫
三位　渡辺　栄一

女子個人
一位　西村　トミ
二位　斎藤　恵子
三位　川瀬二三子

町民庭球大会

一位　鬱田、風間組
二位　古木、花沢組
三位　関根、渡辺組
〃　高橋忠、佐藤組

町民卓球大会

男子の部
優勝　中学校職員組
二位　矢代田チーム
三位　上町商店街チーム

女子の部
優勝　小須戸中OG
二位　商友会
三位　竹井製作所

町民庭球大会

一位　加茂陸協
二位　亀田陸協
三位　新津陸協
総合一位　加茂陸協
タイム　一時間六分二十二秒

最優秀選手賞
五十嵐考治（矢代田）

町民排球大会

団体戦
一位　小須戸中卓球部
二位　矢代田チーム
三位　加藤製作所

男子個人
一位　高橋忠次郎
二位　清水　忠夫
三位　渡辺　栄一

女子個人
一位　西村　トミ
二位　斎藤　恵子
三位　川瀬二三子

文化祭

〃　河内　壮一郎
万年青展
〃　高橋アキ子
〃　高野恵美子
〃　柳　リュウ
〃　砂井　春一
〃　青木キヨ子
〃　蘭万同好会長賞共
〃　小柳　侃二
〃　同好会賞共
〃　加藤仁一郎
〃　同好会賞共
〃　河内　壮一郎
〃　高橋　豊作
〃　須佐弥之助
〃　高橋　豊作
〃　玉葱　清水　忠夫
〃　深靴　木下　秀子
〃　米　武田　一弥

町民余技作品展

町長賞　工　風間源一郎
教委賞　画　長瀬　辰夫
公民館長賞　清水　忠夫
奨励賞　木下　秀子

川瀬　鹿子
美濃千代江
高山　テイ
笠原　大作
石川　保
町民余技作品展
風間源一郎
残　雪
富士の雪　板垣久太郎
〃　蘭万同好会長賞共
日月星　小柳　侃二
〃　同好会賞共
〃　加藤仁一郎
〃　残　雪
〃　富士の雪
〃　鳴戸海

俳句展

第一部一位　内山　越楼
二位　矢部　旺資
三位　加藤　渓灯
第二部一位　伏見　水月

最優等賞
富士の雪　佐藤　権六
〃　池田　政広
〃　日月星　池田　政広
富士ノ雪　吹池田政広
砂子実生　野崎　昭夫
残　雪　長沢　信司
鷲　高補　板垣久太郎
富士の図　小柳　侃二
優等賞
残　雪　池田　政広
亜東残雪　竹石考一郎
阿波日月屋　加藤仁一郎
〃　田中忠一
〃　日月星　池田　政広
〃　長井　考大
富士の雪　長沢　信司
〃　上田　銀作
〃　砂井　春三
加藤仁一郎
武田　考策

農産物展

二位　棚橋　杏水
〃　阿達　竜朗
〃　三位　長谷川一陽
〃　本望　紫川
三等賞
〃　柿　吉井　正平
〃　柿　高山　キイ
〃　丸山　基
〃　丸山　晃一
〃　柿　高山シン子
〃　柿　須藤徳一郎
リンゴ　高山与三郎
午劣　渡辺直次郎
〃　午劣　木村　稔
〃　白菜　高山　秀一
〃　吉田
〃　米　武田考策
〃　米　新保柿組合
〃　柿　斎藤　行雄
〃　柿　高山　豊作
〃　柿　新保柿組合
〃　高山市太郎
〃　高橋　豊作
〃　深靴　高野仁一郎
〃　米　武田　一弥

俳句展

第一部一位　内山　越楼
二位　矢部　旺資
三位　加藤　渓灯
第二部一位　伏見　水月

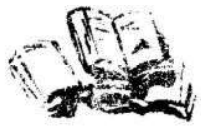
年末だ戸締りに火の用心

霜月句会報

小須戸町俳句同好会

短日の夕陽におそき児の帰校　虚秋
時雨るゝや無心にテレビの相撲見る　香月
ほの白し月のひかりの枯尾花　芳人
対岸のバス走る灯や秋の暮　一陽
掃きながら美し椿の落葉屑　紫川
草枯るゝ空き地売られて工場建つ　竜朗
蟷螂は箒ふりあげて掃かれおり　杏水
兎休に帰りて母に簡子張る　水月
大根引き野は荒涼の野にかえり　流水

購入図書



◇人生読本　夏目漱石篇　編　瀬沼茂樹
◇芥川龍之介篇　編　進藤純孝
◇島崎藤村篇　編　松村定孝
◇太宰治篇　編　奥野健男
◇倉田百三篇　編　藤原　定
◇小林秀雄篇　編佐古純一郎
◇武者小路実篤　編　山室　静
◇永遠のエルザー　ヨジイ、アダムソン　遠藤周作
◇結婚　田口憲一
◇Ｓ社の秘密　柴田錬三郎
◇若くて、悪くて、凄い　川上宗薫
◇卒業前後
◇朝な夕な　ヘルダ〳〵
◇一人の女優の　共著
◇留学　本
◇世界の若者たち　大江健三郎
◇人間尊重の事業経営　出光興産株式会社、社長室
◇山荘の紋刑吏　島田一男
◇社長太平記　笠原良三
◇江戸の落日　左近　隆
◇日本の職人　古田光邦
◇日本の椅子　藤原弘達
◇愛と死のかたみ